



学校だより 2月

令和6年1月31日 横浜市立芹が谷南小学校

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/serigayaminami/>

春はすぐそこ

副校長 倉島 英治

新しい年が明けて、早くも1か月が過ぎ、今年度も残すところあと2か月となりました。1月ということもあり、とても寒い日も多かったのですが大勢の子どもたちが元気に校庭で遊んでいます。「子供は風の子」というのは今も昔も変わらないんだと実感しています。(右の写真は休み時間の様子)



さて、先日大学の文化祭に足を運んだ時のことを記したいと思います。教員志望者が多いその大学では、文化祭と言っても、いわゆるお祭りのような出店や催し物はありませんでした。各ゼミからの発表や展示が主なものでした。国語や算数などの教科に関する研究や、日本の教育の歴史の発表などもありました。その中で、最も多かったテーマが「ESD」でした。「ESD」とは、「Education for Sustainable Development」を略した言葉で、「持続可能な開発のための教育」という意味になります。将来の社会をつくっていくことになる子どもたちにも、現代社会のさまざまな課題と持続可能性の考え方を今から教えていこうという取組の一つが ESD ということになります。ちなみに、日本における ESD の目的については、文部科学省が以下のように定めています。

- ・全ての人が高質の教育の恩恵を享受すること
- ・持続可能な開発のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びの場に
取り込まれること
- ・環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような価値観と行動の変革をもたらすこと

その文化祭での各ゼミの「ESD」に関連した発表で共通していたことは、「社会や世界との関わりを自分のこととして捉えること」でした。私が学生のころは教科の教え方や児童理解などを学びましたが、現在の学生は、「社会の担い手の育成」を意識しながら教育について学んでいることがわかりました。芹が谷南小学校でも、人権や多様性を尊重し合う気持ちの育成や他学年との交流などで、お互いに認め合い、協力し合って、課題を解決していく力を育成しています。今後、少子高齢化やグローバル化が進む現代において、これからの社会を支えていくには、多様な人々がお互いを理解し、認め協力し合い、進んでいく力が必要とされ、またデータを分析して論理的に考えたり、柔軟に考えたりする力の育成も求められるということを学びました。

まだ寒い日が続いていますが、もうすぐ立春です。春はすぐそこまでやってきました。芹が谷南小学校の素敵な子どもたちとともに、希望に満ちた温かい春へと進んでいきたいと思っています。